部 会 報 告

審 判 部

2025年3月291日
桜Internationalソサイチサッカー大会inNARITAにて
（左から山田３級審判、関谷３級審判）

Narita Football Association Let's Enjoy Football !! 成田市サッカー協会

2024年度　サッカー審判資格講習会

審判部活動報告

審判部では次年度更新時には極力実技講習会に注力していきます。
定例講習会以外にも審判部独自な企画も実施してまいりました。

	講習会名	開催日	開催場所	受講者数	インストラクター名
1	新規審判資格取得	6月16日	中台体育館会議室	33名	足立　良次氏
2	審判資格実技更新	12月22日	中台運動公園球技場	12名	林　　克三氏 足立　良次氏
3	スキルアップ研修会		赤坂公民館	3名	審判幹部員
4	新規審判資格取得	2月2日	中台体育館会議室	68名	足立　良次氏
5	審判資格更新		eラーニングにて実施		日本協会方針

近年、新規審判資格取得と更新講習はJFAWebからの申し込みとなりました。
新規審判資格取得の場合はJFAIDを取得することからはじまります。
JFAID取得後、ログインIDとパスワードを入力して「KICKOFF」サイトに入り
https://jfaid.jfa.jp/uniid-server/login

２０２４年度　審判部の各種活動報告

審判部活動報告

サッカー大会への審判派遣実績

	種別	開催日	開催場所	大会名	派遣者数
1	女子	4月7日	中台球技場	女子サッカーフェスティバル	2名
2	3種	4月13日	成田西中学校	中学生第2ブロックサッカー決勝	4名
3	1種	5月26日	中台体育館	社会人フットサル大会	7名
4	3種	7月9日	成田西中学校	中学生第2ブロックサッカー決勝	―
5	3種	6月22日	市内周辺中学校	U15サッカー大会	3名
6	3種	6月23日	市内周辺中学校	U15サッカー大会	1名
7	3種	9月30日	市内周辺中学校	U15サッカー大会	3名
8	3種	11月18日	市内周辺中学校	U15サッカー大会	3名
9	3種	2月15日	市内周辺中学校	成田市文化祭（若獅子杯）大会	3名
10	3種	2月22日	市内周辺中学校	成田市文化祭（若獅子杯）大会	4名
11	女子	3月22日	中台球技場	うなりくん女子大会	5名
12	5種、女子	3月29日	中台球技場	桜インターナショナル	8名

【　ご連絡　】　リーグ戦審判募集について

審判部ではNFA主催サッカーやフットサル大会、年間のリーグ戦に審判派遣を行って大会を盛り上げてまいりました。
審判はサッカー選手とは違う醍醐味がありますのでサッカー大会を審判の立場で参加いただける方「NFA主催のサッカー大会審判を募集」させていただきます。

自薦、他薦、女性の方でも結構です。審判を始めたばかりの方には丁寧にご指導いたします。
ご連絡先は下記となります。よろしくお願いいたします。
審判部「林」まで。電話番号：080－5439－3443

審判活動を通じて

審判部活動報告

【2024/25　競技規則改正について】

競技規則変更の抜粋

以下、2024/25年競技規則の変更となる。各変更について、これまでの文章に加え、改正された、または追加された文章を一部抜粋にて記載しました。

【第4条 – 競技者の用具 】

すね当て – それ相応に保護することができる適切な大きさと材質でできていて、ソックスで覆われていなければならない。競技者は、すね当ての大きさと適切さに責任を負う。

【第12条 – ファウルと不正行為 】

反スポーツ的行為に対する警告

競技者が反スポーツ的行為で警告されなければならない状況は、様々である。例えば競技者が、

- 相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害または阻止するためにボールを手や腕で扱う。ただし、意図が的でないハンドの反則として主審がペナルティーキックを与えた場合を除く。
- 相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止し、意図的でないハンドの反則として主審がペナルティーキックを与える。

退場となる反則

競技者、交代要員または交代して退いた競技者は、次の反則のいずれかを行った場合、退場を命じられる。

- 意図的なハンドの反則を行い、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止する（自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが手や腕でボールに触れた場合を除く）。
- 自分たちのペナルティーエリア外で意図的でないハンドの反則を行い、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止する。

得点または決定的な得点の機会の阻止（DOGSO）

競技者が、意図的なハンドの反則を行い、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止した場合、反則が起きた場所にかかわらず、その競技者は、退場を命じられる（自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが手や腕でボールに触れた場合を除く）。

競技者が意図的でないハンドの反則を行い、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止し、主審がペナルティーキックを与えた場合、反則を行った競技者は警告される。

【第14条 – ペナルティーキック】

ボールがインプレーになる前に、次のいずれかが起きた場合、

ペナルティーキックをけった競技者の味方競技者は、次の場合にのみ侵入したとして罰せられる。

- 侵入が、明らかにゴールキーパーに影響を与えた。または、
- 侵入した競技者がボールをプレー、またはボールに向かうことで相手競技者にチャレンジして、その後、得点する、得点しようとする、または得点の機会を作り出す。

ゴールキーパーの味方競技者は、次の場合にのみ侵入したとして罰せられる。

- 侵入が、明らかにキッカーに影響を与えた。または、
- 侵入した競技者がボールをプレー、またはボールに向かうことで相手競技者にチャレンジして、相手競技者が得点する、得点しようとする、または得点の機会を作り出すことを妨げる。

詳細につきましてはJFAおよびNFAのHPにてご確認お願いいたします。
https://www.jfa.jp/laws/